

# 大志を育む



令和元年9月13日

教育委員会だより

No. 30

発行：北広島市教育委員会

## 北 広 島 市 の 生 徒 指 導

指導主事 岡 本 仁

北広島市では、市内各小中学校の生徒指導担当者が定期的に集まり、校外生活の決まりを検討したり、市内の危険箇所、不審者、問題行動等の情報を共有しています。この他、大曲地区に隣接する清田区の教護協会にも参加して、子どもの生活の安心・安全に取り組んでいます。最近の傾向としては暴力や触法行為等はほとんどなく、LINE や SNS の不適切な利用によるトラブルがほとんどです。子どもの自主性に任せるばかりではなく、大人がしっかり指導することが必要になっています。

北広島市での生徒指導上の課題は、全国的な傾向と同様に「いじめ」と「不登校」です。

いじめについて全国的に見ると、ここ数年の自殺等いじめの重大事態の様子から、そもそもいじめが認知されていなかったケースが多くありました。そこで、国、道のいじめ対策基本方針が見直され、北広島市も平成30年3月に「いじめ対策基本方針」を改定しました。この改定の目指すものは2点あります。一つはいじめ見逃しゼロ。もう一つは学校全体でいじめ解消に取り組むことです。いじめゼロが望ましいことは言うまでもありません。しかし、集団で生活する中では、他人からいやな思いを受けるのを避けることが難しいものです。従来は継続的、一方的などのいじめ認知の基準がありました。この変更で「相手からいやな思いを受けた」ことをいじめ認知の基準としました。平成30年度市内の年間いじめ認知件数は38件に対して、今年4月から6月までのわずか2か月間の認知件数が67件と大幅に増えています。これはいじめを積極的に認知し、学校として解消にむけて組織的に取り組み、その後の様子を見守ろうとする先生方の変化が表れたものととらえています。全道的にはいじめを認知していない小中学校が約半数ある中、北広島市では、86%の小中学校がいじめを認知し解決に取り組んでいます。今後とも、保護者と先生方が連携し、いじめの早期発見・解決できるよう取り組んでいくことが大切です。

不登校には様々な原因があります。中には集団不適応といって、数名のグループでは大丈夫だけれど、学級や全校など沢山人が集まると恐怖を感じて近寄ることができないという児童生徒もいます。しかし近年多いのは、「ネット依存」による不登校です。極度のネット依存は、誰でも、どの家庭でも、起こりうることです。それらの多くは、学校や仕事が終わった夕方から深夜にかけて活動します。熱中するあまり、深夜から早朝まで、スマホやパソコン、ゲーム機の画面を見て過ごしてしまいます。節度を持って使えばよいの



ですが、WHOが病気と認定するほど、熱中すると抜け出せない怖さがあります。また、相手からの問いかけに返事をしないとネットの世界から追い出されるという恐怖心も働いているようです。結果、朝起きることができなくなり学校にいけない。中には「ネットの中の人」とやり取りすることに生きがい（自己有用感）を感じ、登校する意義を失うケースも少なくありません。このような状況になると解決が難しくなります。北海道教育委員会では毎月、第1・第3日曜日は「ノーゲームデー」として電子メディアの長時間使用を見直そうというキャンペーンをしています。ゲームやスマホ、ネットを使う場所を家族がいる居間などに決める、午後9時以降は使わないなど、具体的に使う時間や場所を決めることを、地域やPTAと連携して取り組む実践も市内では見られます。ネットの利用は子どもにとって欠くことのできないものになっています。マナーや危険性、著作権、発信することの責任など、発達段階に応じた指導を推進することが、今後とも重要だと考えています。

# 大曲中学校区 2019年度 小中一貫教育の取組

大曲中学校区では、昨年度、合計13回の授業交流と、「図工・技術、家庭、英語、キャリア教育」での乗り入れ授業を実施しました。他にも様々な取組を行いましたが、教師の実感はもちろん、児童・生徒の感想や保護者アンケート等からも大きな成果をみとることができました。2019年度は、見えてきた課題を改善しながら、大曲らしく「深化」させるべく取り組んでいるところです。紙幅の都合上、全ての取組を掲載することは難しいので、今回は「大曲らしさ」を伝えられる内容を紹介させていただきます。

## 大曲らしい「持続可能」な小中一貫教育を

今年度、小中一貫教育を「深化」させるにあたり、大曲中学校区でのキーワードの1つが「持続可能」です。メンバーが入れ替わっても当たり前が取組が継続できるような「システムづくり」と、環境が変わってもそれに合わせて臨機応変に対応できる「柔軟さ」を兼ね備えた、小中一貫教育を目指して進めています。

## 地域への発信「小中一貫だより 地域版」

昨年度、保護者アンケートで見た課題の1つが「地域への発信」でした。様々な活動を展開してきたつもりでしたが、学校が思っているほど保護者・地域の方々に伝わっていなかったことがわかりました。そこで、今年度から教職員間での情報交流のため発行してきた「小中一貫だより」の「地域版」を発行しています。「小中一貫の成果をわかりやすく」発信していきます。

## 大曲中学校区3校で専門部会を組織

大曲中学校区には運営組織が2つあります。1つは「3校校長会・教頭会」「事務局」「3校教務部代表者会・生徒指導部代表者会・研究部代表者会・事務部代表者会」という、各学校で推進役となっているメンバーで構成された組織です。もう1つは、「大曲中学校区の教科等専門部会」です。3校の教職員全員が所属し、部会ごとに授業交流を実施したり、重点的に指導する内容を決めたりなど、それぞれの教科を中心に授業改善を図っています。

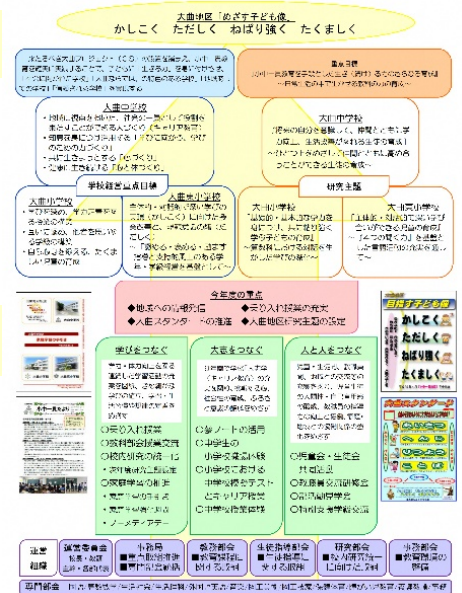
## 今年度の取組から・・・中学校技術科 小学校図工 乗り入れ授業

5月に大曲東小、7月に大曲小にて、柳本環樹主幹教諭（大曲中）による乗り入れ授業が行われました。大曲東小では、昨年度4年生時に柳本先生から「のこぎり」の授業を受けた児童が、今年度5年生になって「糸のこ」の授業を受けました。授業を受けるのが2年目となった児童には、しっかりと学びの積み上げがなされている様子がうかがえました。

## 今年度の取組から・・・中学校理科 小学校理科 乗り入れ授業

8月に大曲東小にて、吉川広樹教諭（大曲中）による乗り入れ授業が行われました。5年理科「天気の変化」の単元です。吉川先生の「この視点は中学校につながるよ」「これは中学生になるまで覚えておいてね」といったつながりを意識した言葉がけに、児童はより真剣に学習に向かっていました。また、今回の乗り入れの際に厚真町教育委員会からの視察も行われました。

### 2019年度 大曲中学校区小中一貫教育 全体構造図



(7/5 大曲小での授業)



(7/5 大曲小での授業)



(8/27 大曲東小での授業)